

序―マリー・キュリーが投げかける問い― 3

1 少女の怒り 5

四つの要素 5 喪われた祖国 6 少女マリアの夢 8
「女らしさ」を超えて 11 答えの出ないジレンマ 13

2 三つの恋の物語 15

悲恋に耐えて 15 故国を捨てた恋 17 尊敬と愛情 19 ピ
エールの突然の死 20 予期せぬ不倫 22 年下の男 24
「ランジュヴァン事件」と二度目のノーベル賞 26 数奇
な運命 28 たたずむ男の想い 30

3 ノーベル賞を有名にしたもの 32

ノーベルの遺言 32 格好の受賞者 34 年を取らないとも
らえない? 36 国と国との競争 37 科学者たちの縄張り
争い 38 悪用された成果 39

4 墓はなぜ移されたか 41

パンテオンに眠る最初の女性 41 墓を移す 43 フランス
の自負 44 原子力政策とのつながり 46

5 誤解された夫婦の役割 48

「理性的な男／感情的な女」というステレオタイプ 48
「頭脳はピエール、肉体労働はマリー」ではない 50 ウ
ラン放射線と出会う 51 徹底した定量実験 53 新元素を
取り出す 55 賞賛の裏側 57 原子の意味を変える 59

6 二つの祖国のために 61

マリー、戦場を駆ける 61 戦争と女の関係 63 悲願のポ
ーランド独立 65 マリーの戦争観 67

7 ピエール・キュリーの「個性」 69

協道を行く 69 ピエールの結婚観 71 自分たちに合った
家庭生活 73 いやいやながらの選挙運動 75 「負け犬」

の崇高な野心 77

8 科学アカデミーに拒まれた母と娘 80

女性会員はいない 80 もう一人の候補者 82 政治と宗教
のねじれた関係 83 怒りと抵抗 85 娘イレーヌの闘い 86

9 変貌する聖女 89

書き換えられる伝記 89 見かけだけの平等 91 第二波フ
エミニズム運動 93 新しい伝記への批判 95

10 マルグリット・ボレルとハーサ・エアトンとの友情 98

シスターフッドの価値 98 女が男の所有物だった時代 100
キュリー母娘を助ける 102

11 放射能への歪んだ愛 104

見過ごされた放射線の害 104 夫妻の症状 106 広がる犠牲
者 108 甘く見積もられた危険性 110 「薬は毒」 112

12 アインシュタインの妻 114

恋に落ちた留学生 114 アインシュタインの家族 116 ミレ
ヴァの母性 117 「そこそこ」の美人という条件 119 潰さ
れたキャリア 120 離婚、そして死まで 123

13 リーゼ・マイトナーの奪われた栄光 126

忘れられた「原爆の母」 126 裕福なユダヤ人の娘 127 逆
境の中で 128 「淑女」という鎖 131 ついにポストを得る 133
プロトアクチニウムの発見 135 孤独な亡命者 136 核分裂
の発見と証明 138 ノーベル賞を獲得しそこなう 139 名誉は
回復されたが 141

14 放射線研究に斃れた日本人留学生 144

ラジウム研究所への派遣 144 命を縮めた研究 146 誇るべ
き日々 147 近代日本が見た夢 149 女の一生 150 女性の生
き方の変化 152 放射能を帯びたパスポート 154

15 「偉大な母」の娘たち 156

正反対の姉妹 156 父親の死と祖父の影響 158 幸せでなかつた少女時代 160 「粗野な」イレース、「エレガントな」エーヴ 161 それぞれのノーベル賞 164

16 キュリー帝国の美貌のプリンス 166

映画スターに比せられた科学者 166 キュリー夫人の驚愕 167 二つの姓を持つ意味 169 フレデリックの才能と努力 170 政治的な闘い 171

17 湯浅年子の不屈の生涯 174

日本初の物理学専攻女子学生 174 「ジョリオ先生」の弟子 176 戦火を縫って 178 日本では研究ができない 179 結婚の条件 181 大いなるロール・モデル 183

18 キュリー夫人とモードの歴史 185

青いウエディングドレス 185 女性ファッションの激動期 187

19 簡素な服装とスポーツの奨励 190

19 「完璧な妻、母、科学者」という畏 193

なぜアメリカで歓迎されたのか 193 ジェンダー・バイアス 195 「女中」の存在 196 同業者カップルの困難 198 何を学ぶべきか 200

あとがき 201

参考文献 212